

・特記事項

1. 地域の資源「妖怪」を包摂した諸活動の展開

本学姫路キャンパスが立地する兵庫県神崎郡福崎町は、日本民俗学の父と仰がれ、『遠野物語』『妖怪談義』『故郷七十年』等の著作で知られる民俗学者柳田國男の生誕地である。これを背景に福崎町では、柳田が研究対象の一つとした「妖怪」や「物の怪」にちなんだ町おこし活動を積極的に展開している。こうした立地の特性を生かし、本学姫路キャンパスでは、妖怪の要素を教育研究や課外活動等に取り入れた諸活動を以下の通り展開している。

[教養科目「妖怪学」の開講]

令和4年(2022)度より、姫路キャンパスの2学科(健康スポーツコミュニケーション学科・未来社会学科)において、「妖怪学(地域と妖怪)」及び「妖怪学(妖怪と文化)」を「総合教養」領域の1年次配当科目として新たに開講した。

[民俗学・妖怪に関する図書資料の収集と展示]

姫路キャンパス図書・情報センター閲覧室3階に、柳田國男の著作、柳田國男に関する研究書、民俗学関係の図書を多数取り揃えた「柳田國男コーナー」を設置し、閲覧に供している。コーナーには、柳田が研究の対象とした妖怪や妖怪の伝承に関連する書籍を多数収集・展示している。

[「妖怪ベンチ」の設置]

福崎町は妖怪による町おこし活動の一環として、町内各所に「妖怪ベンチ」を設置するとともに「妖怪ベンチ探検マップ」を配布しており、福崎町の観光資源の一つとなっている。本学は福崎町との連携の下、姫路キャンパス内に2基の妖怪ベンチ(「フクちゃんサキちゃん」(河童をモチーフとした福崎町のキャラクター)、「タタミタタキ」)を設置しており、妖怪ベンチ巡りを楽しむ観光客が休日を中心に本学のキャンパスを訪れている。

[「魍魎魍魎祭」の開催]

本学では開学以来、毎年10月下旬に学園祭を開催し、地域との交流を図ってきた。令和4(2022)年度より姫路キャンパス学園祭の名称を「魍魎魍魎祭(ちみもうりょうさい)」と改め、プログラムの随所に妖怪に関連した活動を取り入れている。令和5(2023)年度の魍魎魍魎祭では、前述の「妖怪学(地域と妖怪)」を担当する木下昌美講師の講演会(「日本と世界の魍魎魍魎」)、妖怪コスプレコンテスト、「妖怪の館」(お化け屋敷)の設置、妖怪ランタンの装飾等の企画を実施した。

[その他]

本学の学生寮は、名称を「チミモウ寮」としている。また、大学ホームページに「妖怪の町福崎」バナーを設置し、妖怪にまつわる福崎町の取り組みの一端を紹介している。